

アスリートのセカンドキャリアに関する考察
A Study of the Career of Athlete after Retirement

1K08B152-7 根井 裕之

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 深見 英一郎 先生

【目的】

輝かしい現役時代を過ごしたアスリートにとって必ず直面する問題であるセカンドキャリア問題。セカンドキャリアを見つけることができず、犯罪や自殺などのニュースを目にすることがある。そんな中マーティン・キーナートの著書『文武両道、日本になし』では文武両道の成功者を紹介している。彼らはアスリートでも成功し、セカンドキャリアでも成功している。そこで本論文では、アスリートにおけるセカンドキャリア問題の現状を把握し、学業の面から解決策を提言することを目的とする。また自分自身、幼いころから文武両道を目指して、これからも文武両道が私の生きる軸になると思われるので、今一度見つめなおし再認識することも目的である。

【方法】

本論文は、アスリートにおけるセカンドキャリア問題の現状を把握し、学業の面から解決策を提言することが目的である。まずはセカンドキャリア問題の現状について、実際にアスリートがどのようにセカンドキャリアをとらえているかについて調査する。その後セカンドキャリアの問題の少ない海外のキャリアサポート制度や、文武両道の成功者について調査し、学業の面から解決策を見出していく。主に文献研究で進めていく。

【結果】

第二章

日本のアスリートの傾向として、セカンドキャリアへの意識の低さ、引退後も引き続き競技に関わりたいという意向の強さがある。そこでキャリアサポートとして引退後の事について考える講座のようなものがある。しかし意識調査の結果からキャリアサポートが行き届いていないことが分かる。スポーツ振興基本計画ではキャリア・プランニングの必要性、キャリア・トレーニングの必要性、キャリアの社会的還元の必要性、キャリアに対応した職域開発の必要性の四点をアスリートが安心して競技に専念するためには環境の整備、アスリートの引退後への配慮について指摘している。

第三章

文武両道の成功者たちは幼いころより、

スポーツだけでなく様々なことに興味を持っている。目標とするものが一つではないのだ。だからスポーツだけに力を注ぎこむのではなく、多くのことに携わろうとしている。だから現役選手であるときにでも、スポーツ以外の目標に向かって努力しているという結果が得られた。日本人は一つのことだけにエネルギーを費やしてしまう傾向がある。その結果、アスリートはセカンドキャリアに移行する際、スポーツに関わる仕事以外に興味、関心が少なく、スポーツ以外のスキルを持っていることが少ないのであると考えた。

第四章

海外のキャリアサポート制度では現役時代からスポーツと学業を両立させ、競技以外の活動を行うことの重要性を理解させようとしていて、スポーツにだけ集中させてしまわないような支援制度ができていくことが分かる。だからアスリート個人がセカンドキャリアに対する意識が強く、競技以外のスキルを身につけられる環境がある。その結果としてセカンドキャリア問題があまり大きくない。

【考察】

セカンドキャリア問題はセカンドキャリアへの意識の低さ、引退後も引き続き競技に関わりたいという意向の強さであり、その改善策として学業が重要であると考えた。スポーツと学業を両立させることでセカンドキャリアとして、競技と関係のない仕事へと移行するときに必要なスキルが身につけていた。また身につけるための基礎学力があるので容易にスキルを身に付けることが出来ると考えたからである。そこで学業に力を入れてもらうため、また競技以外のことにも興味を持ってもらうための提案をした。

今後の課題としてアスリートに対してどのように学業を学ばせるのか。またどのようにセカンドキャリアに対する意識の向上をさせるのか。そのために学業に従事しなければならない学生時代に、どんな教育をしていくのかが課題だと考える。